発行所（郵便番号100）
東京都千代田区丸の内2-4-1
丸ノ内ビルヂング781号室
社団法人スウェーデン社会研究所
Tel (212) 4007・1447
編集責任者　高須裕三
印刷所　関東図書株式会社
定価150円（年間購読料弐千円）
1976年12月25日　発行
第8巻　第12号
（毎月1回25日発行）
昭和44年12月23日第3種郵便物認可

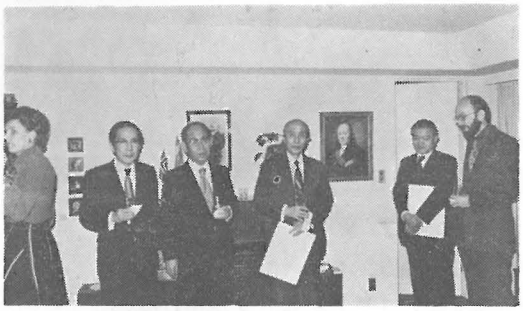
スウェーデン社会研究月報

Bulletin Vol. 8 No. 12

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning
(The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)
Marunouchi-Bldg., No. 781. Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

ノーベル・デー記念東京集会とツュンベリーのこと

Tokyo Meeting to celebrate the Nobel-day
and a Note of Thunberg.



12月10日、ノーベル・デー記念の会の一場景。
右側の画は、Mrs. Fritzson の描いたC. P. Thunberg 像

12月10日の夜、ストックホルムでは、その年のノーベル受賞者たちを祝ってパーティーが開かれるが、同じ10日の夜、東京でも「ノーベル・デー」を記念する集まりが在日スウェーデン大使館 Fritzson 報道官夫妻の主催で行なわれた。

この日、スウェーデン側からは Odevall 大使夫妻、そのほかそれぞれの担当官たち、また北欧諸国の在日大使館の代表者たち、それに特に今年の受賞者を大量に出したアメリカ合衆国大使館の代表も出席した。日本側からは既往の受賞者としての朝永振一郎氏夫妻をはじめ日本学士院の碩学たち、北欧には特に縁の深い国際的日本画家の東山魁夷氏、今年とくにツュンベリー来日200年記念行事に貢献した日本植物学会の関係者たち、元大使の松井明、日向精蔵の両氏、新聞界からは日本新聞協会専務理事の江尻進氏、朝日新聞論説主幹の江幡清氏、北欧文化協会理事長の林穣二氏などの顔が見えて、質的に充実した会合であった。

席上、Odevall 大使は、同じ頃ストックホルムで進行中のノーベル賞式典を想い合わせつつ、ツュンベリー来日200年の日瑞文化交流事業に貢献した日本植物学会長・林孝三博士以下の関係諸氏に対して「王立スウェーデン科学アカデミー」総裁 Frans E, Wickman（同事務総長 Carl Gustaf Bernhard）氏より贈られてきた diploma を読みあげ、各氏にみずから手渡された。

その diploma に記された文章は、つぎの通りである。

「C. P. Thunberg 訪日200年を祝して、王立スウェーデン科学アカデミーは、C. P. Thunberg 死後4年の1832年に彼を記念して造られたそのメダルを、今回複製しました。当アカデミーは、C. P. Thunberg の科学的業績に関する日本側の評価に、大いなる喜びを以て感謝を表明し、且つ日本国天皇陛下の示された御関心により、C. P. Thunberg の名声の上に与えられた大きな名誉を有難く思います。天皇陛下はまた上記メダルの銀の複製を受納することに同意されました。

No.12 目　次

ノーベルデー記念東京集会とツュンベリー……1
日本文化の原点とツュンベリー……高須　裕三…2
ツュンベリー関係資料一覧……3
スウェーデンの小学校……高橋たか子…0
生協・流通視察調査団日程……0
昭和51年研究月報目次一覧……0
研究所年間活動メモ……0

当アカデミーは、ここに○○○○氏が C.P. Thunberg 200年記念メダルのブロンズの複製を受けたことを公示します。それは同氏の、Thunberg 200年祭の諸準備への重要な貢献、200年祭行事を成功に導いた努力、および今後さらに日本―スウェーデン間の科学協力の連結的役割を果たされるべきことに対して与えられたものであります。

王立スウェーデン科学アカデミー
総　　裁　Frans E. Wickman
事務総長　Carl Gustaf Bernhard」

なおこの diploma の上半分には、このアカデミーの象徴図画が書かれている。KUNGULIGA SWENSKA WETENSKAPSAKADEMIEN (The Royal Swedish Academy of Sciences) という横幕の下で、一人の逞しい男が裸になって樹を伐り荒野を耕している労働の姿で、その下には農具と航海用具、つまり陸と海とにおける生活の道具と器具とが配されている図柄である。そして象徴的な標語として、"Efterkommandom"（後から来る者のために、将来の世代のために）と書かれている。これは、科学の歴史的原点を示すものであるとともに、同時に、「あるべきすがた」をも示すものであろう。実に意義の深い言葉であると思われる。　（高須裕三記）

日本文化の原点とツュンベリー

The Original Point of the Culture of Japan and the Meaning of C.P. Thunberg

常務理事　高　須　裕　三
Prof. Yuzo Takasu

今年、昭和51年も押しつまった12月下旬、福田内閣が成立し、大平正芳氏（当研究所理事長でもある）は自民党幹事長に就任された。たしか12月25日朝のテレビであったと思うが、インタビュー記者が大平幹事長に向かって「今回の組閣人事は近代的とはいえませんね」と切り出した。すると大平氏は即座に、「近代的はもう古い、今は現代化の時代だ」と切り返えした。ふだんは弁舌さわやかとは義理にもいえない大平先生の口から、名刀「つばめ返し」にも似た反撃をくらって、そのインタビュー氏は、たじたじとなって二の句がつげなくなった。「近代的」を戒められたこの記者に、その真意が理解できたかどうかは疑問であったが、とかく近視的闘争に明け暮れやすい政治家の中にあって、「近代化」と「現代化」とを識別し、政策の基本線を後者の方向に求めようとする大平氏の歴史眼に、さすがに見事という印象を私は受けた。

歴史の惰性的コースとしては「近代化」がある。けれどもその「近代」は、西欧では200年余、日本でも100年余を経過して種々の面にその弊害が顕著になってきている。これ以上「近代化」コースを進めば、地獄行きは必至の運命となっている。それゆえに踏み慣れたコースからこの際離脱して脇道を開拓する努力が必要なのである。それが「現代化」というUターン・コースである。

その際、「革新」というのは、近代コースの延長上に求められるのではなく、螺旋状Uターン的転換に求められるのであり、Uターンの方向は「近代」の「原点」である。そしてそこにこそC.P.ツュンベリーが位置するのである。

ところで歴史は、螺旋状に展開してきたので、「近代」の原点はまた「中世」の原点でもあり、相似たような関係でそれは同時に「古代」の原点ともなる。結局、時代の転換期には、「日本文化の原点」への還帰が要請される。

「日本文化の原点」が何であるかは今は問わない。けれども、その原点（例えば、「自然との融和」）は、遠い祖先の過去の一点にあったというのではなく、歴史の螺旋状展開につれて、時代の転換期、すなわち「中世」の創造期にも「近代」の創造期にも、そしてまた「現代」の創造期にも、以前よりも一層その特徴を、具体的な相として、再出現してくるのである。

このようにして、「日本文化の原点」と「ツュンベリー像」と「日本の現代化」とは相関連した基本線となっているのである。

最近の日本におけるツュンベリーの資料と記事

List of Materials and Articles on C. P. Thunberg
Published recently in Japan

このリストには、ツュンベリー来日200年を記念して発表された新聞・雑誌の記事のほかに、最近日本で出版された文献も収録した。

木村陽二郎『日本自然誌の成立』自然選書　中央公論社　1974　（本書には重要文献のリストがまとめられています）

中西　啓『長崎のオランダ医たち』岩波新書　岩波書店　1975

江上照彦『悪名の論理』中公新書　中央公論社 1969

原田伴彦『長崎』中公新書　中央公論社　1964

高須裕三「ツュンベリー江戸入来200年祭について」『スウェーデン社会研究月報』8巻1号

「ツュンベリー来日200年記念行事」　同巻3号

高須裕三「近代「自然誌」の原点に還帰することの今日的意味について――ツュンベリー来日200年に寄せて――」同巻4号

Yuzo Takasu : "The Significance of Returning to the Starting Point of Japan's Modernization"　同巻7号

林孝三「ツュンベリー来日200年記念行事――準備委員会余録――」同巻8号

木村陽二郎「ツュンベリー記念事業始末記」（『植物と自然』1976、10(7)より転載）同上

佐藤大七郎「京都の森林生態シンポジウム」同上

高橋文「ツュンベリーをたずねて」同上

Ambassador Bengt Odevall : The Opening Address.　同巻9号

Per Fritzson : "Carl Peter Thunbergs tid - några glimtar ur Sveriges historia" 同上

林孝三「植物の生きかた」（『大法輪』43巻9月号より転載）　同上

原寛「生物学御研究所をお訪ねして」　同上

西村光夫「C. P. ツュンベリーの200年記念」（日本経済復興協会『経済復興』51年6月上旬号より抄録）　同上

ペール・フリッツォン「カール・ペーテル・ツュンベリーの時代――スウェーデンの歴史を振りかえる――」　同巻10号

江上照彦「田沼時代とツュンベリー」　同上

高須裕三「ノーベル・デー記念東京集会とツュンベリーのこと」，「日本文化の原点とツュンベリー」　同巻12号

「200年前、植物学者がやってきた」『ガデリウス　ガゼット』　1975年8－9月　第76号

「スウェーデンの植物学者　ツュンベリー来日200年記念行事開く」『植物と自然』1976　10(5)

木村陽二郎「ツュンベリー資料展を見て」『自然』　1976年8月号

木村陽二郎「ツュンベリー来日200年記念行事について」『植物研究雑誌』　51巻10号

木村陽二郎「ケンペル・ツンベルグと茶」『植物と文化』　No. 9, 1973　八坂書房

松浦一「ツュンベリーの記念碑」社誌『みすず』No. 5, 1959. 8　みすず書房

Richard C. Rudolph : "Thunberg in Japan and His Flora Joponica in Japanese" Monumenta Nipponica, XXIX, 2

木村陽二郎「鎖国日本とツュンベリー」朝日新聞（夕刊）51. 5. 15

「日本植物学の始祖　ツュンベリー来日二百年で記念行事」朝日新聞（夕刊）51. 5. 8

「スウェーデンの自然科学者ツュンベリー来日200年」京都新聞　51. 5. 14

外山三郎「日本植物学界の恩人」長崎新聞　51. 5. 17

高須裕三「ツュンベリー来日200年　日本「近代化」の原点の意義」毎日新聞（夕刊）51. 5. 20

高須裕三「学際化・国際化のすすめ」毎日新聞（夕刊）51. 11. 11

その他関係記事：朝日新聞（夕刊）51. 5. 12、長崎新聞 51. 5. 24、毎日新聞長崎版 51. 5. 24

"Bicentennial of Thunberg's Arrival in Edo Being Feted", Mainichi Daily News, Mon. May 17, 1976

Thunberg の Flora Iaponica と伊藤圭介の泰西本草名疏が1976年春、井上書店より複刻。

ツュンベリー来日200年記念行事の Proceedings が間もなく日本側で出版されます。

（河野道夫記）

スウェーデンの小学校

The Primary School of Sweden

高　橋　たか子
Takako Takahashi

「宿題も受験勉強も無いし、のんびり勉強できるから、スウェーデンの方がいい。」と、現在小学校6年生の藤川ゆかりちゃん（12歳）は言う。

スウェーデンに住んで今年で4年目だそうだ。学校で、スウェーデン語の無料特別講習を受け、現在、ほとんど言葉に不自由は無い。

「日本とちがって、高校、大学への入試は無いし、学歴偏重社会ではなく、むしろ手に職を持った職人が優遇されているスウェーデンに住んでみて、子供のことを考えると、とても競争のはげしい日本へは帰れない。」と母親の藤川よう子さん。

通信簿全面廃止へ

現在、小学校1、2、4、5年生には通信簿は無く父兄会のとき生徒の状態を伝えるだけ。3年生の通信簿は76年秋より廃止され、6年生だけに通信簿がある。

「通信簿によって、できる子、できない子と区別し、いたずらに競争心をあおるより、のびのびした環境の中で、一人一人の個性をのばす様な教育、競争するより、お互いに助け合うことを学ぶ教育が必要。

その為には通信簿は全く不必要。」と教育庁のロルフ・アルムベリーさん。

又、現場教育4年目のカリーナ・ベッシィングさんも、「義務教育は9年間ある。急ぐ必要はない。

小学校の間は、むずかしい問題の解き方を習ったり、強制的に知識の植えつけをするより、むしろ自由な雰囲気の中で、勉強したい、習いたいという意欲を養うことが大切。生徒にも個人的限界があるので、それ以上を要求しても、先生も生徒も両親もお互いに不幸になる。

学校教育は通信簿などで比較、等級づけすべきでなく、むしろ生徒を助けるべきだ。」と通信簿制度に強く反対。

将来、通信簿全面廃止、現在よりさらにのびのびした人間的雰囲気の中でその個人にあった教育をとその改革を続けているスウェーデン。

「その為には、現在のクラス人数を半分以下にへらすべきだ。」と再びカリーナさん。

現在、クラスの大きさは、1年生から3年生まで20人～22人、4年生から6年生まで24人……と日本のクラスの半分だ。

1週間の学習時間は、1年生、20時間；2年生24時間；3年生、30時間；4年生からは34時間、土、日は休校。

「子供達にとって、遊ぶ時間は、勉強している時間と同様に重要。勉強だけで育ったらどんな人間になるかしら？。」とカリーナさんの友だちマグネタ・ランドグレンさん。

2ケ月以上の夏季休暇も宿題は全く無い。北欧独得な太陽の沈まない豊かな自然の中で、子供達は休暇を充分楽しむ。

高校、大学への入学試験は無い。従って進みすぎの子を作る進学塾、学習塾など、もちろん無い。

学歴偏重から、学習塾過熱現象の日本と全く反対の方向にあるスウェーデン。

しかし実際はどうなのかしら？とフィスク・セトラ小学校（首都ストックホルムより1.5マイル南東）を訪問してみた。

フィクス・セトラ小学校

まず6年生を訪問。数学の時間である。生徒20人。

ガムをかんでいる子、オトイレに行く子、あちら

こちらを行き来している。非常に騒がしい。しかし、いったん先生の説明が始まると皆自分の席で静かに聞き、その後友達、先生の助けを借りて問題を解く。

40分間のうち、基礎的説明を３分の１、あとの３分の２は個人指導。できる子には、もっと進んだ課題を与えたり、又、友達を助けたりさせる。

充分に時間をかけても、なお遅れる子供には、クリニックと称する３～４人の特別個人指導が行なわれる。

できる子だけ指導するのではなく、学校が責任持って全員がわかる様チームが組まれている。

「宿題は、ほとんどだしません。出しても30分で仕上がる程度のもの。それより家に帰ったら友達と遊んだり、両親と話したりする方が重要だと思う。」と担任のブリック・ホルムステン先生。

「宿題は１週間に２～３回、あとは友達と森を散歩したり、かくれんぼしたり、卓球したり、本を読んだり、音楽を聞いたりする。もっと宿題があった方がいいよ。」とアニカー・ベストベリちゃん（12歳）は語る。

次は３年生のクラス。

スウェーデン語書き方の練習。20人。「先生、早すぎるよ。」「先生、良く見えないよ。」「待ってて よ。」などと、どんどん先生に注文をつける。非常に自由な明かるい雰囲気である。40分の授業が終るとクラスが二つに分かれる。

一班は家に帰えり、あとの班は数学とスウェーデン語を勉強。重要な課目は人数を少数にして効果的に指導しようというもの。

「昔は、先生には絶対服従だったけど、今は先生の役割も変わって先生と生徒というより、むしろ、個人と個人の関係。友達みたいな関係。その方が授業にも効果がある。」と担任のマグネタ・ムニクト先生は言う。

「生徒によって理解の程度に非常に差がある。ついていけない子は休学しはじめ、不良非行に走る場合が多い。だから、その子の能力に応じて個人指導するのが一番。できる子だけ、できない子だけを対象に授業するなど、もってのほか。

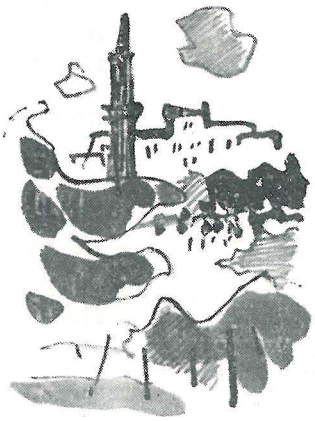
現在小学５年生の場合で国語８時間、算数５、英語４、音楽２、図画２、工作２、体操３、その他８となっており、スウェーデンもまだ主要科目外の科目をおろそかにする傾向にある。専門家になるならべつだけど、これからは、むずかしい数学の問題のとき方を習うよりむしろプラクティカルなものに重点を置くべきだ。」と校長のブリータ・ボーマンさんは、時間割り当てにちょっと批判。

学校が終った後、学習塾、進学塾に行く日本の子供達と比べ、宿題もほとんどなく、学校でも人間らしい雰囲気の中で自由にのびのびと授業を受け、豊かな自然の中でのびのび遊ぶスウェーデンの子供達。

学校の訪問を終えて、せめて小さい時は、この様であるべきだとつくづくと感じると同時に「確かに日本の子供達の各科目の世界的順位は高い。しかし、それだけでいいのか？。人間としての幸福な存在、成長は必要ないのか？。大切なのはベストになることではない。むしろ、その子が生きがいを持って暮らせる人間に育てるのが重要。

日本の子供達は猛勉強で育っていると聞いたが、これは、余りにも大きな犠牲ではないだろうか？」と言った、教育庁のロルフ・アルムベリーさんのことばが思い出された。

筆者高橋たか子氏は、今夏の生協・流通視察団のスウェーデン訪問の際も、昨年と同様、通訳の労をとられました。本紙上を借りまして厚く御礼申し上げます。



第3回福祉社会の流通・生協視察調査団日程

Stockolm (Aug. 15-19)

Monday, Aug. 16

Vår gård (the Co-operative College)
Mr. H. Advidsson
Administrative Manager of Vår gård
Place; Saltsjöbaden, on the coast outside Stockholm
Mr. Helge Lundberg
Director KF, International Department

Kooperativa Förbundet = KF
(the Swedish Co-operative Union and Wholesale Society)
Mr. Helge Lundberg Director KF, International Department
Address; Katarinavägen 15, S-104 65 Stockholm
Phone; 08/743 21 27
Invitation to Lunch
Test Kitchin
Place; in the KF's Building
Obs! (the Hypermarket)
Place; in Kräftor
Mr. Helge Lundberg was invited to our dinner
at "Seikoen".

Tuesday, Aug. 17

Skärholmens pensionärshem (the old peoples home)
Mrs. Gunilla Possenius
Staff of the Stockholm Social Welfare Board
Address; Portholmsgången 3, S-127 48 Skärholmen
Phone; 08/710 64 00

AB Nordiska Kompaniet = NK (Department Store)
Mr. Håkan Ståhlfors, Manager of the Information Desk
Ms. Pelle Hagerman, Staff of the NK
Address; Hamngatan 18-20, S-103 83 Stockholm
Phone; 08/23 00 00

ICA-Karlaplan (a Voluntary Chain Shop)
Miss. Lisbeth Kohls
Chief of the Information Service, ICA-Förlaget AB
Address; Karlaplan 10, S-115 22 Stockholm
Phone; 08/62 15 09

Fältöversten (the Shopping-, Service-, Apartment-Block)
Place; at Karlaplan
Elevhemmet Sätra Cård (the Pupils Home for Physically
Handicapped School Children of the Upper School Ages)
Mr. Bengt Stenqvist, Superintendent
Address; Sätragårdsvägen 8, S-127 36 Skärholmen
Phone; 08/97 01 85

Wednesdsy, Aug. 18

Svenska Riksbyggen (Co-operative Housing Organizatlon of
Swedish Trade Union)
Mr. Sven Johansson
Address; Hagagatan 2, 4th floor. S-104 32 Stockholm
Phone; 08/34 05 20

Invitation ro coffee and cake
Mr. Johansson accompanied our members to
a "Riksbyggen" -dwelling area.
Konsumentverket = KO
(the National Board for Consumers Policies), and
Consumer Ombudsman
Mrs. Yvonne de Geer or Mrs. Brita Bodén
Address ; Sorterargatan 26, S-162 10 Vällingby
Phone ; 08/38 04 60
Lantbrukarnas Riksförbund = LRF
(the Federation of Swedish Farmers)
Mrs. Margareta Carlström
Address ; Klara östra Kyrkogatan 12, S-105 33 Stockholm
Phone ; 08/14 16 00
a field trip into the surrounding of Stockholm
to visit some Agricultural Co-operatives
Svenska Institutet = SI (the Swedish Institute)
Mr. Nils Hildeman
Director, Program for Education and Research
Address ; Hamngatan 27, S-103 82 Stockolm
Phone ; 08/22 32 80
Invitation to Lunch
Prof. Kikuchi, Prof. Hans Bäckvall, Assit. Prof. Nagayama
and Miss Takahashi were invited to our dinner
at Continental Hotel.

Copenhagen (Aug. 19-22)

Thursday, Aug. 19

Faellesforeningen for Danmarks Brugsforeninger = FDB
(the Danish Consumers Co-operative Society)
Mr. Erik Eriksen
Consultant, Information and Educational Department
Mr. Aage Büchert
Press Chief
Mr. Gunnar Skov Andersen
General Manager
Address ; Roskildevej 65, Dk-2620, Albetslund
Phone ; 02/64 88 11
Invitation to Lunch

Friday, Aug. 20

Brugsen, Ørholm (the Co-op Store of Ørholm)
Mr. G. Knudsen
Manager of the Co-operative Store
Place ; in Ørholm, outside of Copenhagen
Invitation to juice and cookies
Brugsen, Helsinge (the Co-op store of Helsinge)
Mr. Oskar Jensen
Chairman of the Co-operative Store
Mr. Kurt Skytte Hansen
Manager of the Co-operative Store
Address ; 20 Frederiksborgvej, DK-3200 Helsinge
Phone ; 03/29 56 66
Invitation to Lunch
a visit to a farm house
Mr. and Mrs. Jensen
Place ; outside of Helsinge
Invitation to coffee and cake

Hamburg (Aug. 22-23)

Monday, Aug. 23

Co-op Handels- und Produktions- Aktiengesellschaft
(former) Grosseinkaufs-Gesellschaft Deutscher
Konsumgenossenschaften mbH = GEG
Mr. Bockwold
Officer of the Information Department
Address; Besenbinderhof 52, (2) Hamburg 1
Phone; 040/2 84 43 83
Invitation to tea and cake
EDEKA Verband Hamburg
Mr. Werner Scheer
Vice-President and Head of the Economics Division
Mr. Wolfgang Danielzik
Head of the Management Department
Address; 2000 Hamburg 60, New-York-Ring 6
Phone; 040/63 77 22 00
Invitation to juice and cake

Paris (Aug. 23-25)

Tuesday, Aug. 24

Federation Nationale des Cooperatives de Consommateurs
Mr. Jean-Paul Charbaut
Research Officer, International Relations
Mr. Jacques Gascoin
Mr. Claude Quin
Address; 27-33, Quai Le Gallo, 92100 Boulogne
Phone; 604 91 78
Invitation to juice and cake
Mr. Charbaut and his secretary were invited to our Lunch
a visit to a FNCC-Store in Paris

Manchester (Aug. 25-26)

Thursday, Aug. 26

Co-operative Union Ltd.
Mr. Roy Garratt
Information Officer and Librarian
Mr. S. H. Ainsworth
Economic and Research Officer
Mr. D. Merry
Co-operative Party National Organiser
Address; Holyoake House, Hanover Street, Manchester M60
Phone; 061/834 0975
Mr. Garratt was invited to our Lunch.
Co-operative Wholesale Society Ltd.
Mr. Cross
Director of the C. W. S.
Mr. Williams
Mr. Shaklton
Officers of the C. W. S.
Address; New Century House, Corporative Street,
Manchester M60 4es
Phone: 061/834 1212

London (Aug. 26-28)

Friday, Aug. 27

International Co-operative Alliance = ICA
Dr. J. H. Ollman
Secretary for Press and Public Relations
Mr. H. Ohmi
Secretary for Credit and Banking
Address; 11 Upper Grosvenor Street London
Phone; 01/499 5991

昭和51年研究月報の目次一覧

No. 1
1976年を迎えて……所長　西村　光夫
ツュンベリー江戸入来200年祭について
……常務理事　高須　裕三
医療問題の研究シリーズ(7)
精神病患者の入院に関するスウェーデン国の法律（下）……癌研究所　蕨岡小太郎
遊び場作りによる都市生活の改造――スウェーデンの現況と今後の方向
……訳　埼玉県立厚生専門学院　荒井　洌

No. 2
地域社会における遊び場の役割――スウェーデンにおける遊び場づくりについての研究メモ
……埼玉県立厚生専門学院　荒井　洌
未解決なスウェーデンの防衛問題
……顧問　小野寺　信

No. 3
スウェーデンの景気変動平衡化制度
……理事　丸尾　直美
スウェーデンの医療の将来
……評議員　小野寺百合子
ツュンベリー来日200年記念行事

No. 4
近代「自然誌」の原点に還帰することの今日的意味について――ツュンベリー来日200年に寄せて……常務理事　高須　裕三
スウェーデン経済の動向――スタグフレーション回避して安定成長を
……東海大学助教授　永山　泰彦
ストックホルム情報……菊池　幸子
スウェーデン老人は老後をいかに（寄稿）
……高橋たか子
スウェーデンの幼児の絵をみる――ストックホルムの保育所を訪ねて（寄稿）
……東京学芸大学大学院　今井　陽子

No. 5
スウェーデン消費協同組合の研究シリーズ(1)
総　括……所長　西村　光夫
スウェーデン消費協同組合と流通革命
……理事　内藤　英憲
T・フセーン教授を迎えて…評議員　中嶋　博
郵便集配人の社会サービス――スウェーデン大使館の映画を見て――……評議員　小野寺百合子

No. 6
カール16世グスタフ　スウェーデン国王御結婚
スウェーデン消費協同組合の研究シリーズ(2)
スウェーデン協同組合の理念――「本質的・現代化」政策の推進――…常務理事　高須　裕三
スウェーデンの協同組合法…研究員　福田雅一
スウェーデンに「日本研究センター」開設――日瑞文化交流の中心として――（ストックホルム情報）……評議員　菊池　幸子

No. 7
日本近代化の原点に還る意味（英文）
……常務理事　高須　裕三
スウェーデン消費協同組合の研究シリーズ(3)
スウェーデン協同組合の出版活動
……家の光協会専務理事　高橋　芳郎
スウェーデン企業首脳の給料…顧問　小野寺　信

No. 8
ツュンベリー来日200年記念特集(1)
記念行事準備委員会余録
…準備委員長・日本植物学会会長　林　孝三
ツュンベリー記念事業始末記
……中央大学教授　木村陽二郎
京都の「森林生態シンポジウム」
……東京大学教授　佐藤大七郎
ツュンベリーをたずねて
……北陸製薬株式会社　高橋　文

No. 9
ツュンベリー来日200年記念特集(2)
シンポジウムでのご挨拶……スウェーデン大使
ツュンベリーの時代
……大使官　ペール・フリッツォン報道官
植物の生きかた…日本植物学会会長　林　孝三
生物学御研究所をお訪ねして
……東京大学名誉教授　原　寛
C・P・ツュンベリーの200年記念
……所長　西村　光夫
ウーロフ・エーリックソン・ヴィルマンについ

て……北陸製薬株式会社　高橋　　文

No. 10

ツュンベリー来日200年記念特集(3)

カール・ペーテル・ツュンベリーの時代――スウェーデンの歴史を振りかえる――

……大使官　ペール・フリッツォン報道官

田沼時代とツュンベリー

……相模女子大学教授　江上　照彦

1976年のスウェーデン総選挙――44年ぶり、社民党野に下る――……常務理事　高須　裕三

スウェーデン消費協同組合の研究シリーズ(4)

日本の農協の生活事業とスウェーデンの生活協同組合について―スウェーデンから学ぶもの―

全国農業協同組合連合会生活部課長　竹内栄次

スウェーデンの生協の労使関係について

……法政大学経済学部講師　渡辺　悦次

歓迎ウプサラ大学総長セーゲルステット博士

……高須　裕三

No. 11

福祉社会の流通・生協視察調査団報告

……理事　内藤　英憲

研究員　福田　雅一

No. 12

ノーベル・デー記念東京集会とツュンベリーのこと……（高須裕三記）

日本文化の原点とツュンベリー……高須　裕三

ツュンベリー関係資料一覧……（河野道夫記）

スウェーデンの小学校（寄稿）……高橋たか子

福祉社会の流通・生協視察調査団日程一覧

昭和51年研究月報の目次一覧

昭和51年研究所活動メモ

スウェーデン社会研究所

活　動　メ　モ

1．17　カロリンスカ病院アルコール患者診療所のソルベイグ・ホルムグレン女史と面談し、研究に協力。

1．20　協同組合研究会を開催。発表者高須裕三常務理事、高橋芳郎家の光協会専務理事。

1．22　ハンブレウス瑞日基金理事を囲み「スウェーデンの研究政策」と題する研究会を開催。

1．23　瑞日基金のハンブレウス理事およびリングストレーム氏と日瑞基金役員懇談。

2．21　教育研究会開催。発表者、NHK総合放送文化研究所の秋山隆志郎主任研究員、テーマ「我が国の放送教育の現状と問題点」

3．1　本年度第1回スウェーデン語講習会開講（当初以来31回目）。

3．5　早稲田大学教授中嶋博当研究所評議員放送教育事情視察のため渡瑞。

3．26　当研究所の総会・理事会開催。51年度の事業計画と予算案を審議。

3．30　本年度厚生省研究補助テーマが「インフレと不況下の福祉政策」と決定

4．10　50年度厚生省補助研究「スウェーデンの消費協同組合に関する研究」の論文を提出。

4．18　ストックホルム大学国際教育問題研究所所長トールステン・フセーン教授と教育問題に就き懇談。

4．24　教育研究会開催。発表者、早稲田大学教授中嶋博当研究所評議員、テーマ「スウェーデンの放送教育の調査視察より帰って」

5．17　日本植物学会主催、日本スウェーデン協会・スウェーデン社会研究所・日瑞基金後援によりツュンベリー来日200年記念行事開始。東京・京都・長崎において記念講演会、記念植樹が行われたほか、東京にては記念の資料展示も行われ、来日植物学者との懇親を深め、5月28日有意義に行事を終了した。

6．7　本年度第2回スウェーデン語講習会開講（当初以来32回目）

6．19　経済・産業研究会開催。発表者フリッツォン大使館情報官、テーマ「マスメディア・イン・スウェーデン」

6．21　ストックホルム大学のヨーナス・エングベリー氏と同大学の日本研究センター設立に関

し懇談。

7．14　精神神経科医ハンス・カールベリー氏とその研究援助につき懇談。

7．21　政治研究会開催。発表者、大使館アンカルクローナ通訳官、テーマ「選挙の見通しについて」

7．22　日瑞基金の総会・理事会を開催。事業計画および予算案を審議。

7．22　「福祉とは何をすることか」の再版出来。

8．11　日瑞基金主催昭和51年度スウェーデン派遣研究員募集を開始

8．15　スウェーデン社会研究所・日本交通公社共催によるスウェーデン等北欧福祉社会の流通・生協視察調査団出発。

8．16　福祉国家、経済産業合同研究会開催。発表者、小野寺信研究所顧問、テーマ「最近のスウェーデン経済の動向」、発表者、丸尾直美研究所理事、テーマ「スウェーデンにおける経営参加の動向」

8．19　西村光夫スウェーデン社会研究所所長、瑞日基金関係者等との意見交換のため渡欧。

10．4　本年度第3回スウェーデン語講習会開講（当初以来33回目）

10．5　放送文化基金へ研究報告書を提出。担当、中嶋博研究所評議員、テーマ「スウェーデンにおける放送教育の社会的役割と日本への示唆」。

10．8　政治・経済・産業合同研究会開催。発表者、ダールストレーム大使館経済担当官、テーマ「選挙結果と経営参加の現状」

10．28　西村光夫研究所所長、参議院にてスウェーデンの福祉事情につき講演。

11．1　スウェーデン国立防衛調査研究所国際社会部長ブロック博士と懇談。

11．1　西村光夫研究所所長が、日瑞基金に関し永井文部大臣と面談。

11．2　スウェーデン大使館、スウェーデン社会研究所、日瑞基金共催にて、ウプサラ大学総長セーゲルステット博士を囲むシンポジウム開催。テーマ「文化・社会に関する情報交換について」

11．10　朝日講堂にて、イエテボリ大学ブラットゴルト教授とともに、高須裕三常務理事、小野寺百合子評議員、「スウェーデンの福祉の現状」と題する講演実施。

11．15　大使館主催のスウェーデン環境保護庁長官の「スウェーデンの公害保護政策」と題する講演会に西村所長ほか研究所幹部出席し意見交換実施。

11．24　学士会主催により日本語研究者コペンハーゲン大学のリデイン教授と懇談。

12．1　福祉国家、政治、経済産業合同研究会開催。発表者、フリッツォン大使館情報官、テーマ「スウェーデン新政権樹立の意味するもの」

事務局より

研究所設立10周年記念行事（案）

昭和52年は当スウェーデン社会研究所設立10周年に当りますが、目下下記の記念行事を計画しておりますので、お知らせいたします。

1. 出　　版
2. 講　演　会
3. 視察団派遣
4. 知識人招聘
5. 祝賀パーティー

至誠堂新書58

福祉とは何をすることか

スウェーデンを場として福祉国家の現実を探り、その財政、経済システム、都市対象、教育問題、価値観の変化等、多面的アプローチ

刊の辞　西村　光夫
序　高須　裕三・丸尾　直美

第一章　スウェーデン福祉国家の社会経済史的背景
第二章　選ばれた体制
第三章　スウェーデン式ウエイオブライフ
第四章　福祉社会の担い手たち
第五章　福祉政策と年金
第六章　教育による自由と平等の推進

執筆者（執筆順）
高須　裕三
丸尾　直美
加藤　良雄
永山　泰彦
河野　道夫
内藤　英憲
菊池　幸子
小野寺　百合子
中嶋　博
荒井　洌

スウェーデン社会研究所編
350頁定価980円

〒101　東京都千代田区鍛冶町1－3　電話（03）256—8121　振替東京97579　至誠堂

ご　案　内

スウェーデン語講習会

当研究所では、スウェーデン語の講習会を、8週間単位で、毎年3～4回宛開催しております。初心者対象で、週2回出席で、午後6時からと7時30分からの各1時間20分の授業です。講師は日本人とスウェーデン人の組合せです。次回は2月21日開講の予定です。

詳細は当研究所へ電話（212—1447、212—4007）でご照会下さい。

第三種郵便物認可
昭和44年12月23日
スウェーデン社会研究月報　昭和51年12月25日発行第8巻第12号　毎月1回25日発行　編集責任者　高須裕三　発行所　社団法人スウェーデン社会研究所　定価一五〇円